

越前市の伝統的工芸品を手にとってもらう方法とは？

武生高等学校 探究文科

1 Abstract

How to Make People Get Echizen City's Traditional Crafts in Their Hands? We researched how to get Echizen City's traditional crafts in people's hands to solve the decline of craft production. We found that a good way of achieving this was to make people know about Echizen City's traditional crafts before buying. So in our study, firstly we thought about how to make opportunities to know more about Echizen City's traditional crafts. Secondly, we thought about how to make traditional crafts more accessible. In conclusion, it is useful to hold events that are related to not only traditional crafts but also something that has other attractions such as serving local food and concerts. Additionally, it is best to use the hometown tax system as a way for people outside Fukui prefecture to receive traditional crafts.

2 伝統的工芸品の現状

伝統的工芸品とは、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づいて経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことである。全国には240品目あり、越前市には越前打刃物、越前和紙、越前箆笥の3品目がある。伝統的工芸品は日本の技術や文化の表れであるが、現在、その生産額は大幅に減少している。図1から、日本全国において平成10年度で約2800億円であった生産額が令和2年度には870億円まで減少していることが分かる。

3 問題提起

先に述べた伝統的工芸品の現状から、生産額の減少は社会における需要の低下を意味する。伝統的工芸品を保護するためには、それらを実際に手に取ってもらうことが必要である。そこで私たちは、自分たちの生活に身近な越前市について考えることとし、「越前市の伝統的工芸

品をより多くの人に手に取ってもらう方法とは何か」について研究することにした。これを研究するにあたり、越前市の伝統的工芸品について越前市外の人々に知ってもらうことが必要だと考えた。そこで、本研究においては、①越前市の伝統的工芸品を知ってもらう方法、②それらを手にとってもらう方法について研究する。なお、本研究における「手に取ってもらう」とは、ただ触れるだけではなく、実際にその製品を入手することとする。

4 ①に関する調査その1

(1)調査方法

まず、越前市の伝統的工芸品3品目を観光客向けに展示・販売する施設である、タケフナイフビレッジ、越前和紙の里、越前箆笥会館で現地調査を行った。

(2)調査結果

現地調査では、訪れた3つの施設間の距離が遠いと感じた。例えば、越前和紙の里からタケフナイフビレッジまでは自動車では約8分、越前和紙の里から越前箆笥会館までは自動車では約16分というように、距離が近いとはいえない。さらに、越前市内を走行するバスを利用する場合にも、一つの路線のみで3つの施設を周ることはできない。このことから、自動車移動する人にとっても公共交通機関を利用する人にとっても3つの施設すべてを周るのに交通アクセスがいいとはいえない。つまり、3つの施設すべてを一度には訪れづらいということだ。そのため、市外から訪れる観光客の目的地としては選ばれにくく、伝統的工芸品を知る機会を減らしている。

(3)調査考察

調査結果(1)より、交通アクセスの悪さが越前市の伝統的工芸品すべてを一度に知る機会を減らしている要因のひとつであると考えられる。

このことから、越前市の伝統的工芸品を知ってもらうためには、3つの施設を周りやすくする工

夫をする、もしくは3つの伝統的工芸品を一度に知ることができる状況を作り出すことが必要だと考える。そして、私たちは越前市の伝統的工芸品を多くの人に知ってもらうきっかけとして、大規模なイベントを開催するのが良いと考えた。

5 ①に関する調査その2

(1)調査方法

イベントの内容を考えるために、多くの人が越前市の伝統的工芸品を知るきっかけとなったであろう、過去に行われた来場者が多かったイベントを探し、その共通点を参考にした。

また、来場者が多かったイベントと比較するために、越前和紙の里の来館者数を調べた。

(2)調査結果

越前市で行われた伝統的工芸品に関するイベントで来場者が特に多かったものは2つある。

1つ目は「RENEW」である。RENEWとは2016年から年に一度行われている産業観光イベントで、越前市・鯖江市・越前町の3市町に渡って開催される。伝統的工芸品を生産する工房や企業が開放され、見学やワークショップに参加できる他、観光に携わる人によるトークイベントも行われる。専用のガイドブックには、イベント開催地周辺の食事施設も示されている。来場者は2020年に行われたもので約3万2千人であった。

2つ目は「千年未来工藝祭」である。上記のRENEWと比べると、伝統的工芸品だけでなくハンドクラフトや工芸品というように幅広い事業者が出店する。『若者に工藝や手仕事を身近に感じてもらい、次世代への継承のきっかけをつくる』というコンセプトのもと、作品の展示・販売・ワークショップに加えて、食べ物の販売や音楽フェスなどが行われる。2019年には約1万1千人が来場した。

また、越前和紙の里の来館者数を調べた結果、令和元年・2年・3年の福井県の主要観光地入込状況(図2)より、越前和紙の里には令和元年には9万2千人、令和2年には7万2千人、令和3年には8万6千人が訪れたことが分かる。この3年間の人数を平均すると、1年間で約8万3千人が訪れたことになり、さらに、1日に約230

人が訪れたことになる。

(3)調査考察

調査結果より、RENEWと千年未来工藝祭は、伝統的工芸品の展示・販売・ワークショップだけでなく、食べ物の販売やトークショーなども行っているという点で共通している。また、越前和紙の里では、画家であった竹久夢二とのコラボ作品の販売や和紙で作られた盆栽の展示などのイベントが行われている。しかし、RENEWや千年未来工藝祭と比べると来場者が大幅に少ない。これらのことから、伝統的工芸品のイベントにおいて、伝統的工芸品以外のその他の要素を工夫することで、来てもらいたいターゲット層を狙うことができる、と考えられる。ここでの「ターゲット層」とは、伝統的工芸品に興味のない人のことを指し、例えば、越前和紙とイルミネーションを組み合わせることで、越前和紙に興味がない若者の来客も見込めるようになる可能性がある。

6 ②に関する調査

(1)調査方法

次に、②に関して、伝統的工芸品を入手しやすくする方法についてインターネットを用いて調べた。その入手方法の普及率やアクセスのしやすさ、伝統的工芸品の値段との相性などを、決定する際の基準とした。

(2)調査結果・考察

調査の考察として、伝統的工芸品を手に取りやすくするにはふるさと納税の返礼品にするのがいいのではないかと考えた。

そのように考えた理由は、調査から分かった2つの事柄である。

1つ目は、ふるさと納税の受入額・受入件数が年々増加しているということだ。図3より、ふるさと納税制度が開始された平成20年度から受入額・受入件数ともに増加傾向にあることが分かる。このことから、利用者が多い媒体であると言える。

2つ目は、製品の値段が高い伝統的工芸品と自己負担の少ないふるさと納税の相性が良いということだ。ふるさと納税制度では、実質自己負

担額2000円で返礼品を受け取ることができる。そのため、実際の店舗で購入するよりも、小さい負担で製品を手に入れることができる。

これらより、ふるさと納税は現在利用者の多い媒体であり、通常高価格な伝統的工芸品を比較的小さい負担で手に入れることを可能にするため、伝統的工芸品を手に取りやすくする方法としてよいと考える。

7 結論と課題

①越前市の伝統的工芸品を知ってもらう方法として、伝統的工芸品に関連した大規模なイベントを開催することを提案する。そしてそのイベントはただ伝統的工芸品のみを取り扱うのではなく、伝統的工芸品に興味のないターゲット層を惹きつける、その他の工夫が必要である。次に②越前市の伝統的工芸品を手にとってもらう方法として、人気の高まっている媒体で、通常高価格な伝統的工芸品と相性の良いふるさと納税を活用することを提案する。

また今回の研究では、①の方法として提案した大規模なイベントの具体的な内容までは考えることができなかった。県内外のどこで開催されるのか、伝統的工芸品に興味のない人を惹きつける具体的な要素は何か、なども残された課題である。よって次回の研究ではイベントの具体的な内容を考察して、実際に行い、本当に狙ったターゲット層が訪れるかどうか調査したい。

8 参考文献

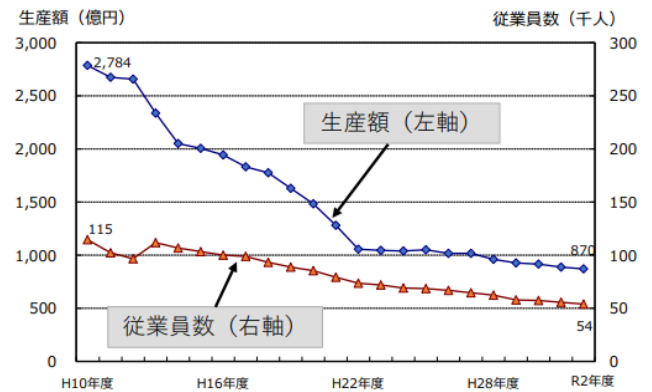
- ・一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会
- ・RENEW実行委員会 (2020) <https://renew-fukui.com/2020/>
- ・一般社団法人SOE(2020)RENEWガイドブック
- ・森一貴(2021)来場者3万人超・福井のものづくりの祭典「RENEW」が大事にしてきたこと <https://note.com/dutoit6/n/nd5aeae4bfeb>
- ・クラフトフェス実行委員会(2019)千年未来工芸祭<https://craft1000mirai.jp/archive2019/>
- ・福井県交流文化部観光誘客課(2022)令和3年福井県観光客入込数(推計)<https://www.p>

ref.fukui.lg.jp/doc/kankou/fukuiken-kankoukyakusu_d/fil/20.pdf

・越前和紙の里(2023)越前和紙の里イベント情報<https://www.echizenwashi.jp/event/>

・総務省(2022)ふるさと納税に関する現状調査結果(令和4年度実施)https://www.soumu.go.jp/main_content/000827748.pdf

・ふるさとチョイス <https://www.furusato-tax.jp/>



出典：一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会

図1 伝統的工芸品産業の生産額・従業員数の推移 (一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会)

観光地(施設)名	令和3年		令和2年		令和元年	
	千人	県内客 千人	県外客 千人	千人	千人	千人
武生中央公園	1,172	937	234	1,009	1,420	
市民プラザたけふ(てんぐちゃん広場)	335	265	70	300	88	
越前そばの里	182	146	36	247	470	
しきぶ温泉湯楽里	172	155	17	146	220	
越前和紙の里	86	69	17	72	92	
紫式部公園	75	63	12	2	63	
万葉の里味真野苑・万葉館	71	64	7	87	253	

図2 主要観光地入込状況(述べ人数)における越前和紙の里の観光客数



図3 ふるさと納税の受入額(棒)と受入件数(線) (総務省)